



なかのみよこ
中野美代子さん
(昭和3年生まれ・87歳)



たかしま かずき
高嶋香月さん
(香川県立高松工芸高等学校3年)



かさい きみこ
笠井公子さん
(昭和8年生まれ・82歳)

コーディネーターより

昭和4年につくられた豊島の「唐櫃の清水」。檀山からの湧き水を無駄なく利用できるよう工夫を凝らした施設は、家庭に水道が通るまで、唐櫃地区の生活用水のほとんどをまかなっていました。上の水槽は食べものを、下にいけばいくほど洗濯ものなど汚れたものを洗う水槽になり、最後は農業用水として田んぼに流れていきます。唐櫃出身の中野美代子さんと笠井公子さんは、清水が暮らしの中心にあった時代を知る数少ない経験者。「こっちで野菜を冷やして」「ここで並んで洗濯したんよ」と懐かしそうに、当時の様子を2人で再現してくれました。聞き手の高嶋さんも加わって、唐櫃の清水には、久しぶりに女性たちが語らう明るい声が響きました。

笠井 夏はよく冷やこい水で遊んでいました。男の子は水遊びして。木陰になって涼しいでしょ。私は畑におって、暑くなったらこへ来て休んで。ジュースなんかなかったから、砂糖水つくって。おいしんですわ。あっさりとして冷たいし。清水は子供達の格好の遊び場でもありました。

——豊島も水に苦労されたと聞いたことがあるんですが。
笠井 干ばつ時には細くなります。この水が今は太いでしょう。この3分の1くらいに細くなります。それでも枯れたことは無いです。しかもこの流れた水は無駄になつたらんのです。この下に田んぼがずーつとあるでしょ。今は荒れてますけど。この田んぼに必要な水になつとんです。おいしい水ですから、できたお米もおいしいですよ。

——利用しに来た人たちも、井戸端会議で賑わっていたそうですね。

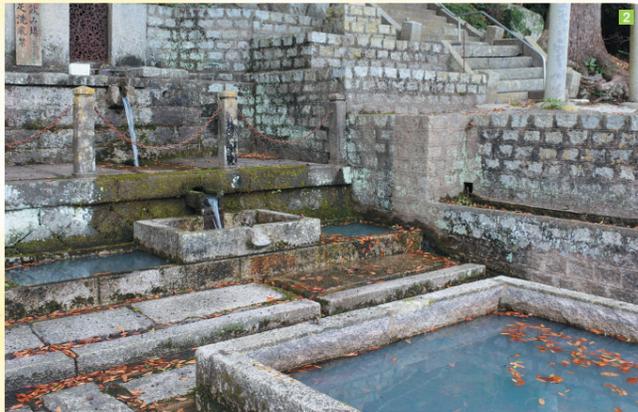
中野 あつちでもくちやくちやく、こつちでもくちやくちやく。笑い合ったり、悩みごとを相談しあったり。みんな親しいですわなあ。やつぱりよく顔を合わせよつたから、いまだに村の人同士の親しみは深いです。

笠井 朝は洗濯に10人と言わず集るんや。洗い場に入れん人は足下のギザギザの石を洗濯板にして。汚れが出んようなるまですすいだら、水槽で「すぎあげ」するんよ。はじめから上の綺麗な水の水槽ですすいだら、後の人が困るでしょ。みんなが使うところですから。今は

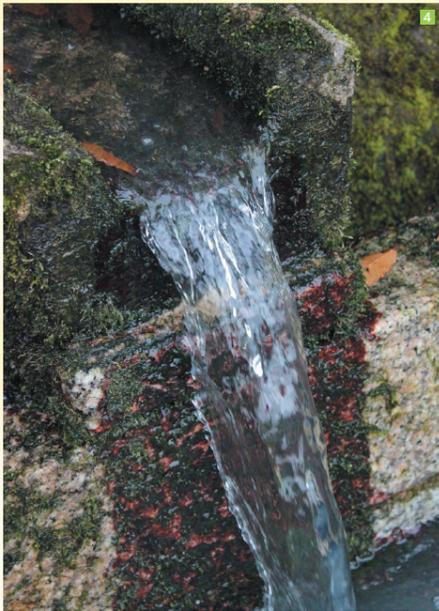
干ばつときも、
枯れたことがないんです。

豊島の「清水」がある暮らしを知る人

中野美代子さん(主庄町)
笠井公子さん(主庄町)



みんなが使うところですから。



1 豊島の「唐櫃の清水」。生活用水として使われなくなった今も、定期的に地区の人が清掃している 2 清水は用途によって使う水槽が決まっていた。一番上は飲料用、真ん中は食べものや飲みものを冷やして、冷蔵庫代わりに。手前の水槽は防災や農業用水。壁面には洗って洗濯できる場所も 3 清水から流れた水は、水路を流れて下流の広い田畑を潤す 4 清水の湧き水は年中水温が一定で、枯れることがない



中野さんと笠井さんから
受け取った言葉

——清水を利用していただいていた当時のことを教えてください。

笠井 井戸がない家は生活用水のほとんどに清水を使ってきました。夏は冷やこい水が出てスイカを冷やしたり、冷蔵庫の代わりにしたりしたなあ。

中野 お風呂の水を運ぶときなんかは、天秤棒を担いで何回も通いましたよ。洗濯も大きなかごに洗濯物を入れて運びました。今は道をきれいに舗装してあるので。昔はでこぼこで石がたくさんあって、天気悪い時は大変でした。子供のおしめなんかは毎日洗わないかんでしょう。きつと水の有り難みがわかりますよ。貴重な水ですから大事に、大事に使います。お茶碗一つ洗っても、いい加減水がいらしますよ。

——子供の頃はもうどうでしたか？

スイッチ一つで、昼でも晩でも他人を気にせず洗濯できますが、ここではそんな風にする人はおられません。今は便利になりましたけれど、ちょっと寂しいですなあ。

——今後この場所がこんなふうに残って欲しいなど、清水への思いはありますか。

中野 そうやなあ。もう少し、清水があるゆゆうことを知ってもらえたらなあ。知らない観光客の人も気付かず通り過ぎるんです。「こつちには清水がありますよ。おいしい水ですよ」ゆうて声かけたら、引き返す人もありますな。湧水口にコップが置いてあるでしょう。みんな手ですくって飲むんですよ。それじゃあ飲みにくいから、誰かが置いておくといいです。風で飛んでなくなつたらまた誰かが置いておくといいです。そうすればいつでもきれいに飲めるでしょう。

参加者の感想



インタビューをして「思いやり」というワードが浮かびました。利用者同士の思いやり、自然への思いやり。それはほんの少し不便な環境から自然と生まれてきたものでした。今の便利な生活の中では見えづらくなっているものに、はっと気付ける場所だと思いました。きつと行ったことのない人も多いと思います。ぜひ実際に行って、地元の方のお話を聞いたり、清水を味わってみたりして、「唐櫃の清水」のほぐんだ思いを感じてみてください。

